

【資料 1-2】

第6次長期総合計画において現在設定している KPI を補足する KPI の設定について

1. 補足する KPI を設定するに至る経緯

令和6年度に実施した令和5年度の第6次長期総合計画の各施策の評価において、長期総合計画推進委員より、現在設定している KPI に対して下記のような意見があった。

(1) KPI の実績値が出ていない施策についてどのように評価したらよいか。サブの KPI を定めておく等の検討をお願いしたい。

<該当する分野別施策>

分野別施策	KPI 指標名	測定周期
第2章2節3項 学童保育・子どもの遊び場の充実	学童保育・子どもの遊び場の充実に対する市民の満足度	隔年（市民アンケート）
第5章2節4項 スポーツによるまちづくり	スポーツ実施率	隔年（市民アンケート）
第7章1節1項 広報活動による情報発信	広報活動による情報発信に対する市民の満足度	隔年（市民アンケート）

※他にも市民アンケートの結果を指標としているものがあるが、施策に対し KPI が1つしか設定されていない施策は上記3項目。

(2) 下記の KPI について、見直しの検討が必要ではないか。

分野別施策	KPI 指標名	理由
第2章1節2項 疾病・感染症予防の推進	胃がん検診受診率	「疾病・感染症予防の推進」という項目について、胃がん検診受診率で KPI の達成状況をみるのが適切かどうか。
第2章1節3項 地域医療体制の充実	市内産科医・小児科医数 【累計】	「地域医療体制の充実」という項目なので共通して目指すべきその取り組みや評価しやすい取組みを設定できるのではないかな。
第2章2節2項 乳幼児の保育・教育	待機児童数	待機児童数は少子化の中でこれからは増えない。この指標だとずっといい成績になる。
第2章3節1項 地域福祉活動の支援	地域づくりに関する住民向け研修会の参加者数	施策の成果のところで、「福祉意識の向上が図られた」と、記載があるが、参加者数を測っており、福祉意識の向上が図られたとまではこの指標では言いにくい。
第2章3節3項 高齢者福祉サービスの充実	シルバー人材センター会員数	シルバー人材センターの会員数が上がっても、直接その体制の充実等には繋がらない。

【資料 1-2】

2. 補足する KPI の設定について

現在設定している KPI については、議決事項ではないが、市議会全員協議会で説明している経緯があり、KPI を変更する場合は同様に全員協議会等で説明する必要があると出てくる。

今回設定する KPI は、あくまで現在設定している KPI を補うものとして取り扱い、現在設定されている KPI が測定できない場合に用いるか、見直しが必要との意見があった現行の KPI と併せて評価する際に用いるものとする。年度によって評価する基準を変えることなく一貫性をもって評価を行うため、補足する KPI を定める。

なお、設定する KPI の詳細については【別紙】 現在設定している KPI を補足する KPI のとおり。

現在設定しているKPIを補足するKPI

(1) KPIの実績値が出ない年度がある施策

施策名	施策の方向性・目指す姿	指標名	担当課等	累計or単年	測定周期	設定理由	目標値算出根拠等	現状値		目標値			同じ指標を設定している個別計画等	
								測定年(度)	中間(R8)	最終(R13)	測定年(度)	測定年(度)		測定年(度)
【第2章2節3項】 学童保育・子どもの遊び場の充実	●地域の子育てに関わる機関・団体の連携を強化し、子どもや子育て世帯を支援する体制づくりを進めるとともに、育児サークルなどの仲間づくりや地域住民による自主的な活動を支援します。 ●将来を担う児童生徒の「生きる力」を育むため、一人ひとりの子どもの個性を生かし、豊かな心を育成する教育環境の充実に向けて取り組みます。	【現在のKPI】 学童保育・子どもの遊び場の充実に対する市民の満足度	子育て支援課	単年	隔年	子どもの遊び場や子どもの「居場所づくり」を推進することで、このことに対する市民の満足度の向上が見込まれることから、「学童保育・子どもの遊び場の充実」に関する施策の成果を測る指標として設定するもの。	長期総合計画に係る市民意識調査により実績値を把握する。 現状値(令和2年度)が過去の数値(H26年度)よりも下降しているため、前期基本計画期間にH26年度(47.89%)の水準まで引き戻し、後期基本計画期間においても、子育て支援施策の充実により、前期期間と同程度向上することを見込み、最終目標値を50%とした。	46.7 %	R2年度	48.0 %	R8年度	50.0 %	R12年度	
		学童保育の充実に対する市民の満足度(直近)	子育て支援課	単年	毎年	子どもの遊び場や子どもの「居場所づくり」を推進することで、このことに対する市民の満足度の向上が見込まれることから、「学童保育・子どもの遊び場の充実」に関する施策の成果を測る指標として設定するもの。	角田市放課後児童クラブ利用者アンケート調査により把握する。	81.5 %	R2年度	85.0 %	R8年度	88.0 %	R13年度	こども計画
【第5章2節4項】 スポーツによるまちづくり	●スポーツにより明るく楽しく健康で活力あるまち(アクティブシティ)の実現を目指します。	【現在のKPI】 スポーツ実施率	生涯学習課	単年	隔年	目指すべき姿「スポーツにより明るく楽しく健康で活力あるまち(アクティブシティ)を実現するためには、スポーツを楽しむ人を増やす必要がある。スポーツを楽しむ人の増減は、スポーツを実施する人の増減と関連性が高いため、厚労省が用いている指標「スポーツ実施率」を指標として設定するもの。	厚労省が指標としている「週2回以上運動を行う成人の割合」は健康長寿課策定の「ここに健康プラン」とスポーツ推進計画においてともに指標としており、令和5年度で男性41%、女性49%を目標としている。さらにスポーツ庁では令和8年度に50%を目標値とする見込みであるため、角田市においてもR8までに50%とする。その5年後については、R8までの3年間で目標値の伸びが5%である(R5(男女平均45%)→R8(50%))ことを踏まえ、また、R3開始のチャレンジデーが市民に定着しスポーツの持つイメージUP(競技スポーツから生涯スポーツへ)が広がり、R13で60%(5年で+10%)とする。 ※福祉計画で3年に1回の計測に加え、長総に関する市民意識調査で隔年で調査する。	- %	R3年度	50.0 %	R8年度	60.0 %	R12年度	第2次角田にここに健康プラン(目標:R2年度で男41%・女49%) 角田市スポーツ推進計画(目標:R5年度で男41%・女49%)
		チャレンジデー参加率	生涯学習課	単年	毎年	スポーツ実施率を推し量る指標の一つとして、「市民総参加型のスポーツイベント」であるチャレンジデーの参加率を設定する。	チャレンジデー参加実績より 2021年(令和3年) 16.3% 2022年(令和4年) 22.6% 2023年(令和5年) 30.9% 2024年(令和6年) 31.1% チャレンジデーの目標値を「50%」としていることから、中間目標値40%、最終目標値50%とする。	31.1 %	R6年度	40.0 %	R8年度	50.0 %	R13年度	第2期角田市スポーツ推進計画
【第7章1節1項】 広報活動による情報発信	●広報紙をはじめ、ホームページやSNS※などと連動した情報発信を行うことで、「伝わる」ことを意識した広報を進めます。 ●市民力を発揮できる環境づくりを進めるため、広報活動等によって、行政情報を市民と共有し、市のまちづくりに対する関心を高め、まちづくりへの参画を促進します。	【現在のKPI】 広報活動による情報発信に対する市民の満足度	総務課	単年	隔年	市民に伝わる広報づくりや多様な媒体を活用した広報活動により、広報活動による情報発信に対する市民の満足度が向上することが見込まれることから、市民に「伝わる」ことを意識した広報を展開することの成果を測る指標として設定するもの。	第5次長期総合計画策定時の市民意識調査の満足度(78%)への回復を図ることとし、5年ごとに約1割の向上を見込む。	56.8 %	R2年度	60.0 %	R8年度	70.0 %	R12年度	
		・市ホームページに対する満足度	総務課	単年	毎年	ホームページの情報やわかりやすさ、見つけやすさを充実することは、伝わる広報や市民力を発揮できる環境づくりに資すると見込まれることから、市民等のホームページへの満足度を指標として設定するもの。	市ホームページの各ページ下部にあるアンケート欄「皆さまのご意見をお聞かせください。」の3つの質問の回答のうち「普通」と「十分」「分かりやすい」「すぐに見つけた」の回答を足した数を全体の回答数で割った数を測定値とする。 R5年度の現状値58%を1年ごとに1%ずつ改善する目標とした。	58.0 %	R5年度	61.0 %	R8年度	66.0 %	R13年度	

(2) 推進委員会の中で現在設定しているKPIが適切かどうか意見があった施策

施策名	施策の方向性・目指す姿	指標名	担当課等	累計or単年	測定周期	設定理由	目標値算出根拠等	現状値		目標値			同じ指標を設定している個別計画等	
								測定年(度)	中間(R8)	最終(R13)	測定年(度)	測定年(度)		測定年(度)
【第2章1節1項】 疾病・感染症予防の推進	●市民の健康を守るため各種(検)診などの充実を図ります。 ●妊婦をはじめ乳幼児から高齢者まで、口腔ケアの取組を強化します。 ●新型コロナウイルス感染症や新たな感染症への対策と予防のための啓発活動の充実を図ります。 ●家庭環境の変化により多様化する相談に応え、子育ての不安が軽減され、家族が健やかに生活できるよう取り組みます。	【現在のKPI】 胃がん検診受診率	健康推進課	単年	毎年	がん検診の実施により、早期発見、早期治療による死亡率や罹患率の低下の成果を図る指標として設定するもの。 市のがん検診の中で最も受診率が低い検診のため設定した。	胃がん検診受診結果より把握する。 現状値を概ね23%として、周知の工夫等により5年間で1ポイントずつの上乗せを見込み、目標値を25%とした。	22.8 %	R2年度	24 %	R8年度	25 %	R13年度	
		乳がん検診受診率	健康推進課	単年	毎年	がん検診の実施により、早期発見、早期治療による死亡率や罹患率の低下の成果を図る指標として設定するもの。	乳がん検診受診結果より把握する。 現状値を概ね24%として、周知の工夫等により年間で1ポイントずつの上乗せを見込み、目標値を32%とした。	24.0 %	R5年度	27.0 %	R8年度	32.0 %	R13年度	
		子宮頸がん検診受診率	健康推進課	単年	毎年	がん検診の実施により、早期発見、早期治療による死亡率や罹患率の低下の成果を図る指標として設定するもの。	子宮頸がん検診受診結果より把握する。 現状値を概ね28%として、周知の工夫等により年間で1ポイントずつの上乗せを見込み、目標値を44%とした。	28.0 %	R5年度	34.0 %	R8年度	44.0 %	R13年度	
		肺がん検診受診率	健康推進課	単年	毎年	がん検診の実施により、早期発見、早期治療による死亡率や罹患率の低下の成果を図る指標として設定するもの。	肺がん検診受診結果より把握する。 現状値を概ね37%として、周知の工夫等により年間で1ポイントずつの上乗せを見込み、目標値を45%とした。	37.0 %	R5年度	40.0 %	R8年度	45.0 %	R13年度	
		大腸がん検診受診率	健康推進課	単年	毎年	がん検診の実施により、早期発見、早期治療による死亡率や罹患率の低下の成果を図る指標として設定するもの。	大腸がん検診受診結果より把握する。 現状値を概ね38%として、周知の工夫等により年間で1ポイントずつの上乗せを見込み、目標値を46%とした。	38.0 %	R5年度	41.0 %	R8年度	46.0 %	R13年度	
【第2章1節3項】 地域医療体制の充実	●安心して暮らせる地域を目指し、地域医療体制の充実を図ります。	【現在のKPI】 市内産科医・小児科医数	健康推進課	累計	毎年	現在市内に不在となっている産科・小児科医は、子育て支援の視点からも招へいを目指す必要性が高いことから、設定するもの。	全国的な医師不足の状況や角田市の少子化の現状などを考慮し、目標値を1人とした。	0 人	R2年度	1 人	R8年度	1 人	R13年度	
		市内医療機関における医師の数	健康推進課	単年	毎年	市内医療機関における医師を確保することにより、地域医療体制の充実を図る指標として設定するもの。	角田市医師会に登録している市内で勤務する医師の数より把握する。 現状値が23人、目標値を24人とした。	23 人	R6年度	24 人	R8年度	24 人	R13年度	
【第2章2節2項】 乳幼児の保育・教育体制の充実	●核家族化や共働き家庭の増加等の社会状況の変化により、保育ニーズが多様化しているため、安心して仕事と子育てを両立できる環境づくりの観点から、多様な保育サービスの充実を図っていくとともに、仕事と子育てを両立するための環境づくりや、男女共同参画による子育てを促進し、「子育てしやすい環境づくり」を推進します。	【現在のKPI】 待機児童数	子育て支援課	単年	毎年	多様な教育・保育サービスを確保し、多様化する保育ニーズに対応することで、働きながら安心して子どもを産み育てられることにつながるから、保育の受け皿の確保に関する取組みの成果として設定するもの。 また、「子育て安心プラン」においても、待機児童ゼロを目指すことが必要であるため。	国の目標に合わせた。利用調整を密に行い、保育需要に応じ保育施設の増設(誘致も含め)検討しながら、ゼロを目指す。	2 人	R2年度	0 人	R8年度	0 人	R13年度	
		設定なし	子育て支援課			宮城県で策定した「子育て安心プラン」においても、待機児童ゼロを目指すことが必要であるため。引き続き上記KPIで進捗を測る。								
【第2章3節1項】 地域福祉活動の支援	●地域福祉の推進主体である地域住民等の参画のもとで、多様な主体が分野を超えて横断的な連携を図りながら、様々な地域課題や生活上の問題の解決のため、地域共生社会※の実現を目指します。	【現在のKPI】 地域づくりに関する住民向け研修会の参加者数	社会福祉課	単年	毎年	地域のニーズや資源の把握、高齢者を支援するための地域づくりを行うため、情報の共有や連携を図る。 市民同士の交流や支え合いが促進され、地域で相談できる人が増加することが見込まれることから、「地域共生社会・地域包括ケアシステムの確立」及び「地域活動の活性化・つながりの強化」に関する取組みの成果を図る研修会を指標として設定するもの。	第8期角田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画に掲げるR5年度の目標値の開催回数(5回)を参考として、R8年度までには各地区ごとに(計9回)開催する想定。R8年度の参加者数を30人/回、地域づくり等への住民の機運醸成によりR13年度までに更なる参加者増を見込み、R13年度の参加者数を40人/回で算出した。 現状値 開催(1回)し、124人の参加者。 中間目標値 各地区ごとに開催する予定(30人×9回) 最終目標値 各地区ごとに開催する予定(40人×9回)	124 人	R2年度	270 人	R8年度	360 人	R13年度	
		設定なし	社会福祉課			今回の指標は「研修会の参加者数をもって、福祉意識の向上が図られたとはいえないのではないか」というものであるため、適切な施策の成果の分析を行い、KPIの設定は行わないこととする。								
【第2章3節3項】 高齢者福祉サービスの充実	●高齢者が生きがいをもち、健康で心安らかに生活できる環境を目指します。	【現在のKPI】 シルバー人材センター会員数	介護支援課	単年	毎年	急速な高齢化社会の進展と社会の変化に応じ、シルバー世代の登録を促し、経験や意欲、能力を活かした就業機会を提供することで社会参加を進めるとともに、社会を支える役割を担う会員を増やすことで生きがいを創出することから、活力ある地域社会構築の取組みの成果を図る指標として設定するもの。	第8期角田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の令和5年度の目標値を参考とし、今後団塊の世代が後期高齢者に移行し、会員のなり手が減少することを考慮し、会員数の維持を目標としました。	453 人	R2年度	500 人	R8年度	500 人	R13年度	第8期角田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(令和5年度500人)
		配食サービス事業の利用数(直近)	介護支援課	単年	毎年	本施策の方向性・目指す姿に掲げる「健康で心安らかに生活できる環境」の推進度合いを図る1つの指標として、独居高齢者・高齢のみ世帯を対象に、弁当を届ける際に安否確認を行う「配食サービス事業」の実利用者数を設定するもの。	令和5年度実績51名をもち、直近の独居高齢者世帯数(国勢調査)の伸び率(国勢調査:H27-R2で約2割増(986→1198名))と、今後、制度の周知をさらに推進することで、中間年度のR8を目標値を80名とするもの。R13は独居高齢者世帯数の伸びと同程度と予測し95名とするもの。	51 人	R5年度	80 人	R8年度	95 人	R13年度	第9期角田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画